

平成 28 年度 「中学生チャレンジテスト」における 南中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成 28 年 6 月 23 日（木）に、第 3 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 3 学年
- ・ 南中学校では、第 3 学年 46 名

3 調査内容

- ① 国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大阪市立南中学校**

【 第 3 学 年 】

生徒数(人) **46**

平均点(点)

平均無解答率(%)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	57.3	53.3	46.0	34.3	65.2
大阪市	58.8	52.7	47.1	37.6	56.8
大阪府	59.6	52.2	48.1	38.6	57.9

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	12.0	6.6	9.3	12.0	4.1
大阪市	10.7	6.0	8.6	9.6	5.5
大阪府	10.1	6.4	8.3	9.7	5.4

結果の概要

外国籍(人)または外国にルーツを持つ生徒が多いので、国語科や専門用語の多い理科の平均点が低くなる傾向にあるが、地理や歴史で難しい漢字が出てくるにもかかわらず社会の平均点が府市を上回っているのは、素晴らしいことだと思う。日本語能力の影響を受けにくい英語は府市の平均を大きく上回っており、本校の生徒の学力が低いわけではないことの証明となっている。

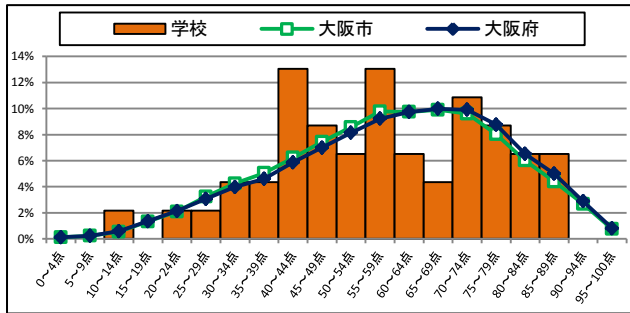
成果と今後取り組むべき課題

いずれの国においても学習の基礎は母国語の能力に基づいていることは明らかで、日本の学校で高い成果を出すには、当然日本語の習得が重要になる。上記のように外国にルーツを持つ生徒については、7次や本市事業の加配の力を使いながら、言語面でのサポートを重点課題としなければならない。

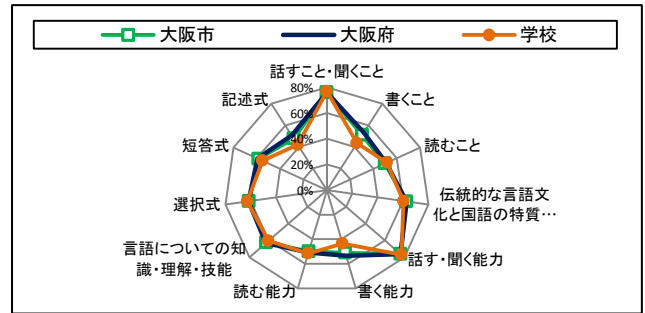
【第3学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

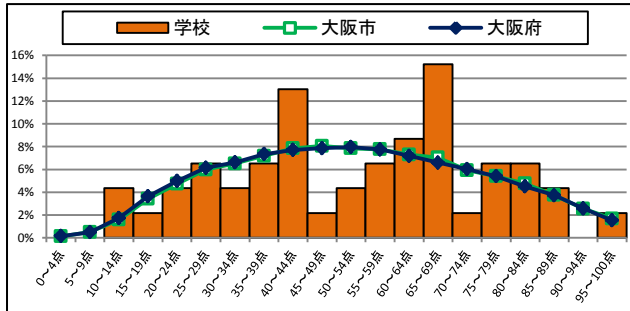


【領域・観点・問題別の分布】

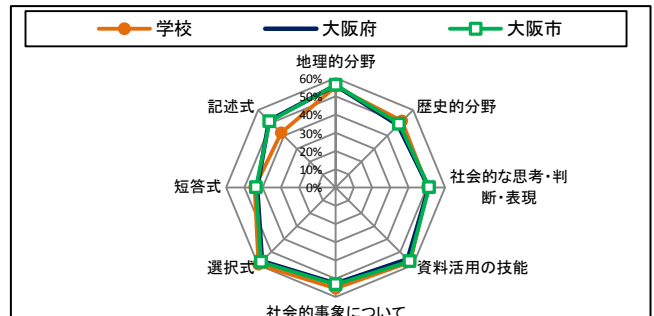


【社会】

【得点分布】

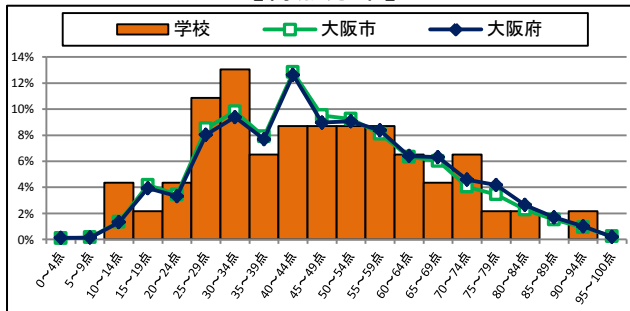


【領域・観点・問題別の分布】

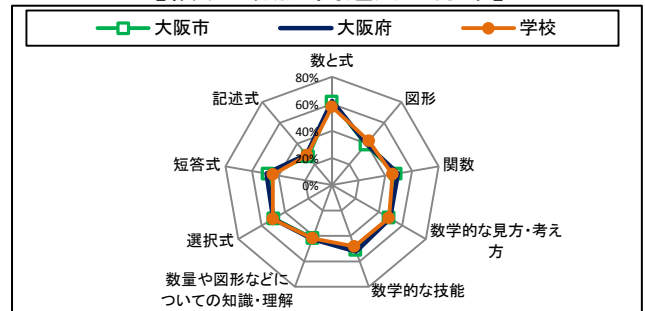


【数学】

【得点分布】

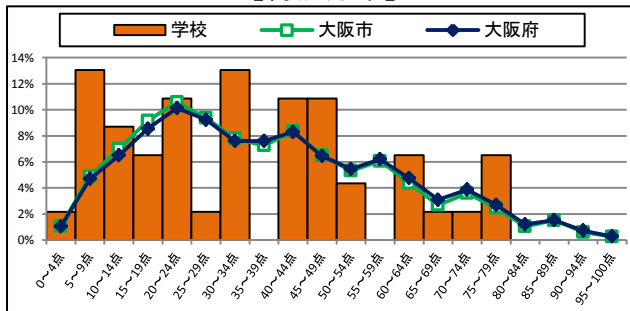


【領域・観点・問題別の分布】

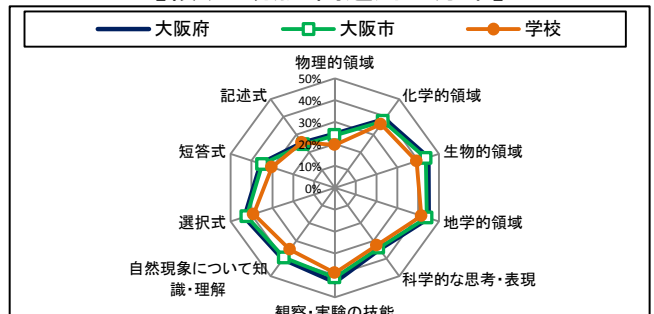


【理科】

【得点分布】

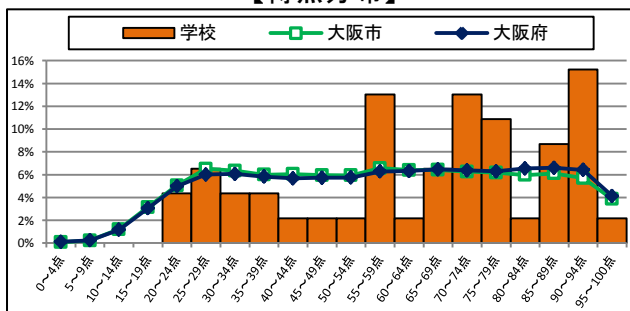


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

